

電気通信大学 平成18年度シラバス

授業科目名	英語演習		
英文授業科目名	Intermediate Seminars in English		
開講年度	2006年度	開講年次	2年次
開講学期	3(4)学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	総合文化科目-言語文化科目-言語文化演習科目		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	西村 芳康		
居室	東1-714		

公開E-Mail	授業関連Webページ
nishimur@bunka.uec.ac.jp	http://www.office-m2.co.jp/denki/

【主題および達成目標】
比較文化の観点から内容に迫りながら、1(2)年で習得した英文読解力をさらに高めることを目標とする。読みやすい英文エッセイを精読しながら、基本的な考え方や知識の確認と難しい表現の克服方法を考える。

【前もって履修しておくべき科目】
English A, B, C, D (この単位を履修していないと登録が出来ないので注意すること)

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
なし

【教科書等】
Kitchen Table Talk (Kay Hetherly著、NHK出版) 前/後期ともに同じ 日常的な話題をもとに日米の文化やものの見方の違いを論じたエッセイ。

【授業内容とその進め方】

(金曜3限)

前期(精読力を養う、なるべく英語を英語のままに理解する訓練)

具体的な目的は、読解力の向上を図るために「文章構造の理解」と「文脈の把握」ができるようにすることである。授業では1年次までに習った基礎的知識をテキストの英文に応用して、段落ごとの内容をつかんでいく。時にはじっくりと内容を考えながら難しい英部に向き合うこともある精読演習。テキストは23課構成で、1回の授業で1課を扱う予定。各課は約600語から成る4頁の英文エッセイ(レベルは中級程度)。

後期(精読力を養う、なるべく英語を英語のままに理解する訓練)

具体的な目的は、読解力の向上を図るために「文章構造の理解」と「文脈の把握」ができるようにすることである。授業では1年次までに習った基礎的知識をテキストの英文に応用して、段落ごとの内容をつかんでいく。時にはじっくりと内容を考えながら難しい英部に向き合うこともある精読演習。テキストは23課構成で、1回の授業で1課を扱う予定。各課は約600語から成る4頁の英文エッセイ(レベルは中級程度)。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

評価方法

- (1) 期末試験(受験には授業回数の3分の2の出席が必要条件)
- (2) 出席状況(妥当な理由のない欠席・遅刻は減点評価をすることがある)
- (3) 授業中の態度や、発表の仕方
- (4) 臨時に小テストする場合がある。

評価基準

以下の2つの基準に基づく。

(大学作成)

100~90点は秀、89~80点は優、79~70点は良、69~60点は可、60点未満は不可。

平成16年度以降は「評価平均」が導入されて、不可や履修放棄は0点として計算に入れられるので注意すること。

(英語教室作成)

合格者の20(+/-10)%は秀と優、合格者の40(+/-10)%は良、合格者の40(+/-)%は可、それ以外は不可。

【オフィスアワー：授業相談】

適宜相談に応じるが、電話やメールなどで事前に予約を取ること。

電気通信大学 平成18年度シラバス

【学生へのメッセージ】
1. 英語に触れるひとときを生活の中に組み込むことが肝要です。 2. 実用的な音声面の英語学習には、NHKラジオ・テレビの語学番組がお勧め。

【その他】